活動レポート　北方海域技術研究会

文責：北方海域技術研究会　幹事長　**山内繁樹**

平成 23 年度　定例会の報告

1. はじめに

北方海域技術研究会では、2011 年(平成 23 年) 10 月 25 日に平成 23 年度の定例会を札幌市のかでる 2・7（1040 会議室)にて開催しました。今回は講演とともに参加者の理解と議論を深める観点から合同ディスカッション形式を取り入れ 47 名の参加を得、当会の金子幹事の司会により進められました。

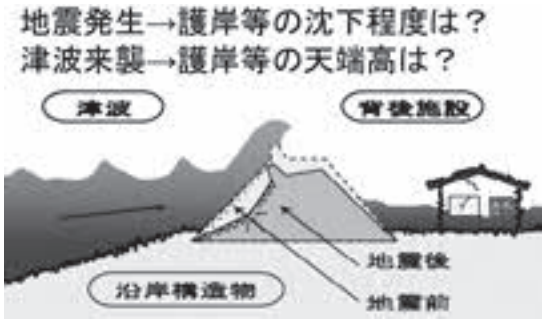
講師を紹介する司会の金子幹事

2. 講演

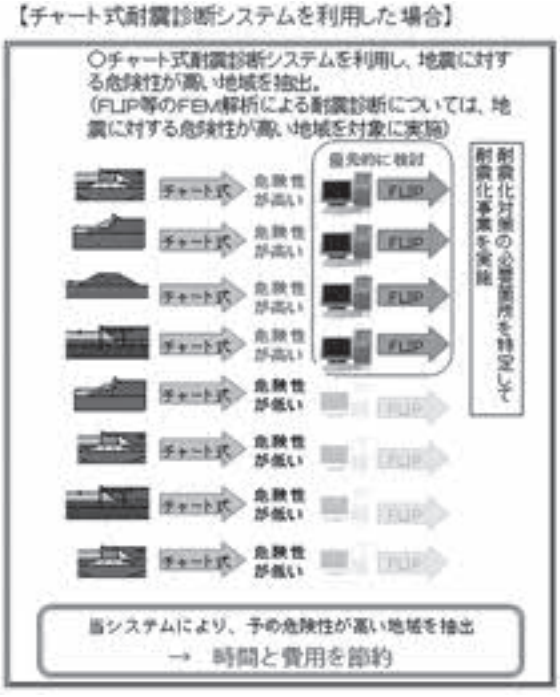
講演は「沿岸構造物のチャート式耐震診断システムについて～簡単、迅速に耐震診断を行うために～」と題して北海道開発局小樽開発建設部次長の平澤充成氏を講師としてお迎えました。

講演では冒頭、3 月 11 日の東日本大震災での被害に弔意を表されるとともに今後も巨大地震は予測されておりこれに備えることの重要さを訴えられるとともにこの診断システムの概要と成果を伝える場を持ちえたことへの感謝の意を頂きました。システムは、前任地の近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所で開発されたもので津波に備えるために地

講演中の平澤講師



診断システム開発の背景



チャート式耐震診断システム利用の概念

震発生後の海岸施設の変異による効用を簡易に予測するものです。予め条件を様々に設定したシミュレーションによる変形量をデーターベース化し造物の変形量を算定することを個別施設の条件を照合するだけで地震発生時の海岸構可能としました。これによって、危険度の高い施設から効率的に耐震化の検討を実施することが可能となりました。このシステムは大阪府や兵庫県等の耐震化の検討で使用されています。

3. 合同ディスカッション

ディスカッションでは「東北太平洋沖地震で見られた港湾・沿岸構造物の被災」「地震被災の再現・解析技術について」の 2 件がそれぞれ清水敏明氏（日本データサービス㈱）、大塚夏彦（北日本港湾コンサルタント㈱）から話題提供されました。清水氏から

話題提供の清水敏明氏

津波被害調査の用語解説（上）と津波被害時の様子（下）

話題提供の大塚夏雄氏

は津波被害の状況をメカニズムや用語の解説を含めながら現地被害の状況を説明いただきました。さらに谷口史一氏からコメンテーターとしてコメントの後、全体ディスカッションに移り復旧のための合理的な調査や住民避難の動向などについて議論されました。大塚氏からは耐震設計技術が静的手法から動的手法へと変遷していく過程や耐震解析に関わる話題を提供していただきました。阿部島直哉氏、橋本孝治氏にはコメンテーターとして再現性の精度を担保する難しさや被災の全般にわたる解析の難しさを指摘していただきました。また、会場とも活発な議論が交わされました。

4. おわりに

今定例会のご講演を頂いた平澤氏には、快くご承諾いただき誠に感謝いたします。新しい試みとして実施した合同ディスカッションでは話題提供やコメンテーターとしてご尽力いただいた方々、活発な議論に臨んでいただいた参加者に対して心からお礼申し上げます。最後に恒例の意見交換会も和やかに開催されましたことを申し添えましてご報告といたします。